

第6次環境基本計画(国) 背景及びポイント

- 深刻化する環境危機
 - ✓ 気候危機(地球沸騰化時代の到来)
 - ✓ 生物多様性(第6の大量絶滅時代)
 - ✓ 汚染への対応(化学物質、マイクロプラスチック等)
- 2030年の重要性
 - ✓ 現代の仕組みなどは持続可能ではなく転換が不可避であり、社会変革が急務
 - ✓ 2030年頃までに行う選択や実施する対策が現在から数年先まで影響を持つと指摘
 - ✓ 2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全
- 環境保全とそれを通じた「ウェルビーイング／高い生活の質」が実現できる「循環共生型社会」の構築
- 循環型共生型社会を目指すことで、国民に「希望」をもたらすものとするため、環境政策を起点とし、経済・社会的な課題を同時に解決していくことを目指す。

	第五次環境基本計画（現行）	第六次環境基本計画（発展の方向性）
ビジョン 「循環共生型社会」	・ 第一次計画以来の長期的目標である「循環」と「共生」を軸に、<u>環境・経済・社会の統合的向上</u>を目指す<u>持続可能な「循環共生型社会」</u>（環境・生命文明社会）を打ち出す	・ 「<u>ウェルビーイング／高い生活の質</u>」の実現を目指す ・ 「環境収容力を守り環境の質を上げることによって経済社会が成長・発展できる」文明。<u>環境負荷の総量削減</u>と良好な環境の創出 ・ 地下資源依存から<u>地上資源基調</u>の経済社会システムへの転換
環境政策の役割	・ 経済社会システム、ライフスタイル、技術のあらゆる観点からイノベーションを創出することによる<u>「新たな成長」</u>の概念を提唱 ・ <u>経済・社会的課題の同時解決</u>	・ <u>市場的価値と非市場的価値</u>を引き上げる<u>「新たな成長」</u>を示す ・ <u>基盤である自然資本とそれを支える資本・システムへの大投資</u>、<u>「環境価値」</u>を活用した<u>経済全体の高付加価値化</u>
環境政策の展開の 基本的な考え方	・ 相互に関連し合う<u>横断的・重点的な枠組</u>を戦略的に設定 ・ 「<u>持続可能な開発目標</u>」（SDGs）の考え方の活用	・ 科学に基づく取組の<u>スピードとスケール</u>の確保 ・ ネットゼロ・循環経済・ネイチャーポジティブ等の<u>統合・シナジー</u> ・ <u>政府、市場、国民</u>（市民社会・地域コミュニティ）の<u>共進化</u> ・ 世界の<u>バリューチェーン全体</u>での環境負荷低減
地域循環共生圏	・ 「循環」と「共生」を軸として、<u>自立・分散型</u>の社会を形成しつつ、近隣地域等と<u>地域資源を補完し支えあう</u>考え方として打ち出す	・ 地域の目指すべき姿として位置付け。<u>「新たな成長」の実践・実装の場</u>

点検結果を踏まえ

※こうした基本的な方向性を踏まえ、6分野（経済システム、国土、地域、暮らし、科学技術・イノベーション、国際）にわたる重点戦略、個別環境政策の重点、環境保全施策の体系等を記述。